

令和3年度版

第1層生活支援  
コーディネーター  
活動事例集

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会  
横浜市健康福祉局

# はじめに

## 1 事例集の作成にあたって

横浜市において、平成28年度に生活支援体制整備事業がスタートしてから6年が経過しました。この間、市内18区の区社協に配置された1層Coは、CP（又は特養包括）の2層Coや区役所の地域包括ケア推進担当係長と連携して、「交流・居場所」「生活支援」「見守り・つながり」の取組を通じて地域づくりを進めてきました。

この事例集は、そうした地域づくりに1層Coがどのような思いをもって関わっているかという点を中心に、取組の背景や経過をまとめたもので、本冊子で5冊目の発行となります。

今年度も、コロナ禍で地域活動の休止期間が長引き、地域住民との話し合いの場を持つことも容易ではない状況が続きました。この期間は、2層Coと共に改めて地域アセスメントを見直したり、生活支援Co連絡会を活用してスキルアップを図ったり、包括と連携した地域づくりに向けての研修や検討会を開くなど、自分たちの足元を固めるための取組に力を入れた一年となりました。

コロナ禍での1層Coの取組状況について、是非ご一読いただければと思います。

## 2 掲載事例について

本事例集では、各区の様々な取組の中から特徴的な事例及び市域の取組を6つ取り上げ、後半ではエピソードとして13の取組を掲載しています。また、取組を「プロセス」と「階層」の2つの視点で整理しました。

### (1) プロセスによる分類

体制整備事業は、住民主体をベースとする「交流・居場所」「生活支援」「見守り・つながり」の充実を通じた「地域づくり」の取組です。どのようなプロセスを踏んでその取組が行われたかを、下記のとおり地域づくりのプロセス(A～C)に沿って、整理しています。

#### A 専門職による地域アセスメント

専門職や区社協の機能を生かして地域や施設の情報等をアセスメントし、課題解決方法を検討する段階

#### B 目指す地域像の一致

地域の情報を基に支援方針を立て、どのような地域を目指していくかを地域住民等と共有していく段階

#### C 課題解決に向けた支援

課題解決に向けて、情報発信や必要なネットワークの構築、具体的な取組を実施していく段階

### (2) 階層による分類

CP（又は特養包括）圏域を2層、区域を1層とし下記のように整理しました。

#### 1層域の取組

- ①区域における担い手の発掘、課題解決に必要な情報発信、アセスメントの整備等による支援
- ②広域に活動する団体（社会福祉法人、民間企業等）のネットワーク等による取組

#### 2層域の取組支援

2層Coと協働した地区社協、自治会等への働きかけや、地域づくりを支援

※横浜市域を範囲とした取組は「0層域の取組」として掲載しています。

# 目次

## ●事例紹介

- 事例 1 栄区 タクシー×専門機関×行政による高齢者の見守り体制づくり …… 1  
～途切れることのないゆるやかな見守り～
- 事例 2 港北区 シニアの力は地域の宝 …… 3  
～シニアボランティアの発掘に向けた取組～
- 事例 3 青葉区 「便利屋さん」を活用した高齢者の生活支援について …… 5  
～生活支援サービス事業所と福祉専門職の連携を目指して～
- 事例 4 南区 生活支援 Co が目指すのはどんな地域？ …… 7  
～啓発プロジェクトの立ち上げと協議を通じて～
- 事例 5 都筑区 移動支援における地域アセスメントの進め方について …… 9  
～共通シートを活用した取組から見えてきたもの～
- 事例 6 横浜市 地域づくりの視点を自分の言葉で語る …… 11  
～1層 Co 連絡会の取組から～

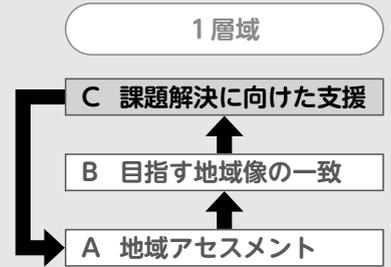
## ●エピソード

- 鶴見区 2層 Co へのヒアリングから見えたことと今後に向けて …… 13  
～一人ひとりの悩みから区内全体のスキルアップへ～
- 神奈川区 日々の地域支援と地域福祉保健計画を結び付ける …… 13  
～コロナ禍における実践事例報告を通して～
- 西区 “みんなが主役”の動画配信 …… 14  
～ハマでうわさの西区民～
- 中区 移動手段から高齢者の生活を支えるために …… 14  
～タクシーを活用したお出掛け企画～
- 港南区 戸別訪問から生活支援 Co が目指すこと …… 15  
～実践力を身につけコロナ禍でも課題解決へ～
- 保土ヶ谷区 コロナ禍での住民主体の「通いの場」の活動支援について …… 15  
～専門職としてどのように支援していくか～
- 旭区 区域で取り組む見守りの仕組みづくり …… 16  
～仕組みづくりを通しての“気づき”と“学び”～
- 磯子区 高齢者の外出手段としてのタクシー活用の取組 …… 16  
～2層 Co と連携し、ひとつずつ事例を積み重ねて～
- 金沢区 ヨコハマ地域活動・サービス検索ナビの公開に向けて …… 17  
～利用者目線での情報発信～
- 緑区 地域アセスメント力の向上 …… 17  
～地域支援の基礎となるアセスメントを見直そう～
- 戸塚区 生活支援 Co 連絡会におけるスキルアップに向けた取組 …… 18  
～生活支援体制整備事業が指すものについて共通理解を進める～
- 泉区 施設との連携による地域貢献の輪を広げる …… 18  
～地域ニーズについて考えてもらうためのきっかけづくり～
- 瀬谷区 個別支援と地域支援の専門職の連携について …… 19  
～主任 CM と生活支援 Co による検討～

# タクシー×専門機関×行政による 高齢者の見守り体制づくり

～途切れることのないゆるやかな見守り～

移動手段から高齢者の生活を支えるために、タクシー会社と連携し見守りと相乗りタクシーの2つに取り組みました。ドライバーやオペレーターの日頃の気づきがゆるやかな見守りとなり、専門機関との連携で見守り体制の充実を図りました。



栄区社協  
若尾 ちづる

## 取組のきっかけ

生活圏が重なる JR 根岸線沿線の 3 区（中区、磯子区、栄区）では、ひとつの区では解決しづらい広域的な課題に連携して取り組むために、令和元年度から、各区が共通して抱える課題のうち「移動手段の確保」をテーマに検討を行ってきました。

3区合同で取り組むにあたり、住民主体の地域活動だけでは解決が難しいと考え、企業と連携した重層的な仕組みづくりを目指すことにしました。

※詳細は R 2 年度事例集掲載

日頃から、高齢者と接している民生委員やサロン団体より、体力が落ちバス停まで歩くことが難しくなった方や、サロンに歩いて行く自信がない方が多くいるため、「移動手段があれば活動に誘いやすく、参加できる方も増える」といった声が多く聞かれていました。

そこで、高齢者が安心して外出できる手段の1つとして、玄関の前まで来てくれるタクシーの活用を検討することになり、令和2年1月、タクシー会社を交えた3区合同協議体を開催しました。その後も定期的に協議体を実施し、効果的なタクシーの活用について検討を重ねてきました。

同時に、栄区にあるタクシー会社の現状を把握するため、2層Coと共に区内にある2社にヒアリングを実施してみると、

- ・常連の方の利用が多い
- ・病院の送迎が多い
- ・10時頃から3時頃の利用は少ない
- ・暮らしの様子をよく知っている
- ・ドライバーのほとんどは区民の方である

といった栄区の特徴が見えてきました。

サロンや買物に移動手段としてタクシーを活用することで、外出に不安を感じている方にも出かける機会を増やすことが可能となります。また、「地域タクシー」として日常的な利用が進むことで、利用者の顔が見え変化に気付くゆるやかな見守りにつながることも、福祉の専門職等と連携することにより強固な見守りの体制づくりが出来るのでは、と考えました。

## 1層Coの想い

ドライバー、オペレーターへのヒアリングを行う中で「日頃の業務の中で気になる方がいるが、どこに連絡したらいいかわからなかった」との声を聞き、その「気づき」をつなげる先を明確にする必要があると感じました。

また、その後も見守っていただくために、情報が一方通行にならないよう、可能な範囲でつなげた結果をドライバーに返すことが取組の継続に必要なだと考えました。

栄区版  
タクシーがつなぐ人と地域！  
24時間365日  
見守り体制  
TAXI

### ドライバーへ 気づきポイント

地域住民の暮らしを守るためのチェックポイント

- ① お迎えに行っても不在がら
- ② 季節感のない服装・履物
- ③ 気になるにおい(尿臭など)
- ④ 今いる場所がわからない？
- ⑤ 具体的に行き先が言えない？
- ⑥ 会話・雑談がかみ合わない(ちぐはぐする)
- ⑦ 小銭が沢山あるのに出せない？
- ⑧ お金を持っていないようだ

上記は一例です。

少しでも気になったら  
配車センターへ連絡をお願いします

栄区社会福祉協議会、栄区地域ケアプラザ、栄区高齢・障害支援課

ドライバー用見守りリーフレット

栄区版  
TAXI

### 見守りポイント

【最近ちょっと心配...】

- ① お迎えに行っても不在がら
- ② 季節感のない服装・履物
- ③ 気になるにおい(尿臭など)
- ④ 今いる場所がわからない？
- ⑤ 具体的に行き先が言えない？
- ⑥ 会話・雑談がかみ合わない(ちぐはぐする)
- ⑦ 小銭が沢山あるのに出せない？
- ⑧ お金を持っていないようだ

これらに当てはまる場合は、認知症等により生活上的お困りごとを感ずている可能性があります。お時間のある時で結構ですので、その方の住所にある地域ケアプラザ(地域包括支援センター)までお知らせください。

地域包括支援センターでは、区役所や地域の民生委員と協力しながら高齢者の見守り訪問もしています。

引き継ぎ様子を見守っていただくことを お願いする場合があります。ぜひご協力をお願いします。

ドライバー オペレーター ケアプラザ 本人

連絡 連絡 対応

※対応の順番は順番で決まっています

オペレーター用見守りリーフレット

## 取組の内容

栄区のタクシーの特徴を活かし「乗り合いタクシーでGO！」と「タクシーの見守り事業」の2つに取り組むことにしました。

「乗り合いタクシーでGO！」は、サロンや買物など同じ目的地へ行くために、ご近所や仲間同士でタクシーに乗り合う仕組みです。

「タクシーの見守り事業」は、タクシー会社が日頃の業務の中で、タクシーを利用している地域の高齢者を見守り、異変に気づいた際にCPなどの専門機関へ連絡する仕組みです。

「乗り合いタクシーでGO！」でタクシーを活用することで、顔の見える関係ができ、見守り体制が充実します。2つの仕組みを同時に活用することで持続可能な仕組みになると考えました。

「タクシーの見守り事業」を進めるため、まず2層Coと一緒にドライバーとオペレーターにヒアリングを実施し、それぞれに見守りのポイントをわかりやすく伝えるためのリーフレットを作成しました。

タクシー会社で行われている研修会の場を活用し、令和3年7月にドライバーとオペレーター向けに、リーフレットを使った見守りの研修会を実施しました。さらに12月には見守り事業の情報交換会を行いました。見守りの研修会は生活支援Coとの顔が見える関係作りのため、その後も定期的にも実施しています。

また、区内すべてのCPに訪問し、見守り事業の説明と協力依頼を行うとともに、この事業の目的や目指す姿について議論を重ねることで、区内全体で取り組む体制を整えられるよう働きかけました。その結果、見守り事業をタクシー会社・区役所・区社協の連携・協力のもと進めるため、三者による「高齢者の見守りに関する協定書」を交わすことにもつながりました。

### Comment

歩行が不安でタクシーの乗り降りが大変な方や、買物や食事の外出に頻りに利用する常連の方、通院に利用していた常連の方でしばらく連絡がないなど、気になる方がいる。そんな時に相談できる専門機関があるのはとても心強い。地域密着のタクシーとして貢献していきたい。(オペレーターより)

毎日のようにタクシーを利用していたが最近利用がない高齢者の方が、包括とつながっていると分かり安心できた。(タクシードライバーより)

1日に何度もタクシーを利用して病院へいく高齢者の方が心配だと包括へ連絡が入り、早期の支援につながった。(包括より)

## 1層Coの想い

この事業は、タクシー会社と専門機関が連携し、地域の見守り体制の一つとするための取組です。そのため、区内すべてのCPが同じ目標に向かって取り組むことが大事だと思いました。

ヒアリングや研修会、CPへの訪問、定例包括カンファレンスなどで情報共有や議論を重ね、取組の目的や目指す姿を明確にすることで、区内のCP全体で取り組むことができたと思います。

## 今後に向けて

今後、日常の移動手段としてサロンや買物などにタクシーを活用することで、高齢者の外出機会を増やすことが可能となります。また、地域の方とドライバーが顔の見える関係となることでゆるやかな見守りにつながることに加え、専門機関等との連携と併せた仕組みとすることで強固な見守り体制の構築が期待できます。

この仕組みを高齢者の生活を支える地域資源として根付かせるため、タクシーの活用を地区社協事業やサロン、ボランティア団体などに展開して行けたらと考えています。さらに、タクシー会社と専門機関との定期的な研修、情報共有などの連携を継続しながら、地域全体での見守りの基盤づくりを進めていきたいと思っています。



オペレーター向け研修会の様子

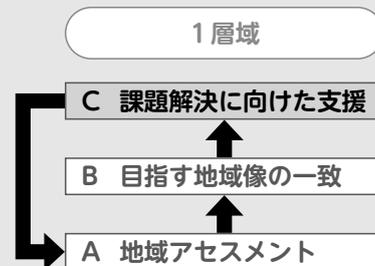


ドライバー向け研修会の様子

# シニアの力は地域の宝

## ～シニアボランティアの発掘に向けた取組～

生活支援 Co 連絡会主催で毎年実施してきた「シニアボランティアポイント登録研修会」は今年度で4年目となりました。コロナ禍でも開催できるよう工夫し、回数を重ねてきたからこそ見えてきた課題に対応すべく新たな取組を進めています。



港北区社協  
渡辺 麻希

### 取組のきっかけ

数年前より、地域活動団体や Vo 団体の多くから、担い手不足の課題の声が挙がっていました。そこで、生活支援 Co 連絡会（以下、連絡会）として区域での課題解決に向けた取組を検討した際、何とかより多くの高齢者が Vo 活動等に参加するきっかけを作ることができないかという話になりました。そこには活動を通じた健康づくりや社会参加促進の意味合いも込めています。

平成 29 年度に作成した「横浜型地域包括ケアシステム構築に向けた港北区行動指針」の中で「よこはまシニアボランティアポイント<sup>(\*)</sup>登録者数の増」を目標値として掲げていたこともあり、連絡会として「よこはまシニアボランティアポイント登録研修会（以下、研修会）」を主催することになりました。

実施にあたっては、市が定めている研修カリキュラムを押さえつつ、開催会場をあえて区中心部から離れた CP に設定したり、特養と連携し施設見学を組み入れたプログラムを設定しました。また「2層 Co と参加者との顔がつながる」ことが大事だと考え、当日は2層 Co の自己紹介とともに、自分の担当エリアの参加して欲しい活動をまとめた「おすすめ活動ガイド」を作成し、PR してきました。

今年度は9月に開催を予定したものの、コロナ禍で延期になりました。それでも申し込んでくれた方の希望に応えたいと、2つの会場をオンラインでつないだ研修会を11月に開催しました。同じ研修会を繰り返すのではなく、毎年、みんなでアイデアを出し合い、変化と工夫を重ねています。

同時に連絡会では「3年間、研修会を継続したけれど実際にどれくらいの方が活動につながったのか。研修会に参加した思いのある方々だから、その力をしっかり活動につなげたい」という思いに至りました。そこ

で今年度は、過去の参加者等を主な対象として、背中を一步押す講座「ボランティアを始めてみようと思いたけれど…私の身近でできること」を計画することになりました。

### 1層Coの想い

この間、シニアボランティアポイント事業が高齢者の暮らしや健康にもたらす効果や影響等について考える機会として、生活支援 Co を対象とした研修を区社協主催で開催し、裏付けや根拠を学ぶ機会も設けました。その時に講師としてお招きした澤岡詩野さん（(公財)ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員/横浜市と協力し本事業の研究調査を実施）は、それ以後も折に触れて各2層 Co の取組をサポートしてくださっています。区域の取組が各圏域での取組により効果をもたらすことができれば…と考えています。

### Comment



なにかやりたいけれど動き出せないシニア層は孤立化リスクの高い存在ともいえます。港北区では参加者が活動団体や先輩 Vo、CP と顔のみえる関係をつくるための手段としてこの研修を位置づけ、「登録くらいなら」と現れたシニアを巻き込むためのタネマキを丁寧に行っています。「Vo 活動に関わることは豊かに暮らし続けるための選択肢の一つである」、これを研修からシニア層だけではなく様々な専門職など地域全体で共有しようとしているのも特筆すべき点といえるのではないのでしょうか。

(公財)ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員  
澤岡 詩野さん

※よこはまシニアボランティアポイント事業とは  
横浜市の事業。指定の施設で活動するとポイントが貯まり、年間8,000ポイント（8,000円）まで寄付・換金ができる仕組み。事業説明を含む研修会受講が必須。

## 取組の内容

### ■講座「ボランティアを始めてみようと思ったけれど…私の身近でできること」

この講座では、澤岡さんの講演の他、実際に活動している家事・生活支援グループやコーヒースロンのVo、団体等に所属せず個人で活動されている方の体験談を中心に構成し、様々なアイデアを盛り込みました。また、企画検討の話し合いや講師との打合せの中では、単に高齢者を活動につなぐだけではなく「楽しみながらやることが自身の暮らしや地域の豊かさにつながる」「必ずしもスーパーVoになる必要はなく、自分ができることをちょっと【おすそわけ】する気持ちで」「まずはCPや誰かとつながることが大事」など、大切な視点を確認する機会にもなりました。



講座チラシ

### 【企画打合せで生まれた工夫とアイデア】

- ▶ 色々な活動スタイルが選べるように
  - ＝団体に属さず、個人で活動している方の体験も話してもらい、活動のイメージが広がるように工夫しよう。
- ▶ 呼び寄せ高齢者が多い港北区だから…
  - ＝見知らぬ土地に引っ越してきた方に、活動を通じて知り合いや仲間ができた話をしてもらおう。
- ▶ 2層Coが持ち寄った先輩Vo一人ひとりの魅力を発信
  - ＝会場でミニ写真展（活動写真とコメント）を開催し、生きがい・やりがいを発信しよう。
- ▶ やりたいと思うタイミングを逃さない
  - ＝コロナ禍でもできる活動の情報を、気軽に持ち帰りできるように小さなカードに記載し、会場に設置しよう。



オンライン配信は常にドキドキ…

## 1層Coの想い

具体的な内容の検討はアイデアあふれる2層Coのみなさん中心に行い、1層Coとしては趣旨や目的を企画書として可視化し、目指すべきところがずれないように確認したり、関係機関との調整やスケジュール管理等スムーズに進むよう環境づくりを中心に行ってきました。港北区の2層Coは経験年数もキャリアも様々です。ひとつの事業を一緒に進めることで、2層Co・1層Coみんなが日々相談しあえる関係づくりや、学びや気づきのあるよりよいチームになっていくことを目指して活動しています。

## 今後に向けて

毎年、年度末から年度当初にかけて、連絡会としてどのような取組を進めるか検討をしています。港北区の人口は市内最多の35万人。高齢化率は市平均と比較し高くないものの、今後急激な高齢者数の増加が予想されます。支えあいのある地域づくりに向け、増加する高齢者の力を地域の力にしたいと考え、Vo活動への「入口づくり」を進めてきました。今後も地域の強みや課題を捉えながら、2層Coのみんなと一緒に効果的な取組を検討していきたいと考えています。

講座「ボランティアを始めてみようと思ったけれど…」はコロナの影響で延期となりましたが、過去のシニアボランティアポイント登録研修会参加者に開催情報を届けるための準備も進めていました。今後も取組実施にあたっては、関係各所への働きかけや相談、様々な主体との連携も視野に入れていきたいと思ひます。



2層Coそれぞれの個性あふれる紙面です（改訂3回）

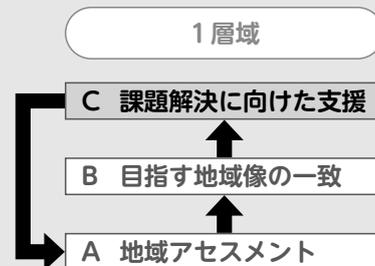


研修等では全生活支援Coの紹介場面を必ず作っています

# 「便利屋さん」を活用した 高齢者の生活支援について

～生活支援サービス事業所と福祉専門職の連携を目指して～

青葉区では、いわゆる「便利屋さん」といわれる生活支援サービス事業所（以下、事業所）と生活支援 Co との連携を進めています。また、事業所が高齢者の生活を支える手段になることを CM などの専門職へ伝えていきます。



青葉区社協  
野々村 まなみ

## 取組のきっかけ

青葉区 Vo センターや CM には、「家の中のことは近所の人には頼みづらい」「お金を払ったほうが気兼ねなく依頼ができる」といった理由から、生活支援の Vo グループだけでなく民間企業を紹介して欲しいという相談が多くあります。そのため生活支援 Co は、介護保険サービスや Vo だけでなく、民間企業も含めた多様な主体との連携を探ってきました。

一方生活支援 Co 連絡会では、2つのチーム（企業連携チーム、リスト活用による社会参加促進チーム）で区域の取組を進めており、事業所との連携については企業連携チーム（7名）が中心となり、検討しているところでした。

検討を進める中で、高齢者の生活支援という視点で考えると、植木の剪定や手続き同行など、介護保険制度などの公的なサービスだけでは手助けできないニーズが多くあることが分かりました。そこで、状況に応じて民間のサービスを上手に使えるよう、いわゆる「便利屋さん」の料金やサービス提供の様子について、明らかにすることにしました。まずは事業所のサービス内容等の実態を知るために、平成 31 年 1 月と令和元年 9 月に「生活支援サービス事業所 情報交換会」を開催し、事業所と生活支援 Co が直接顔を合わせる場を設けました。

次に、事業所を包括や CM など多くの方々に知ってもらうため、令和 2 年 2 月に複数の事業所を招いた「生活支援サービス事業所 見本市」を開催すべく企画を進めていました。しかし、コロナの拡大により見本市はやむなく中止することになり、コロナ禍でもできる

取組を再検討することにしました。

## 1 層 Co の想い

コロナ禍により、予定していた「生活支援サービス事業所 見本市」が中止となり、事業所とどのように連携すればよいか分からない状況が続きました。そのため、CM や包括等福祉の専門職に事業所を知ってもらう有効な手段はないか検討を重ねた結果、新たな取組へ仕切り直しすることになりました。

初めてのことはばかりでしたが、2 層 Co の皆さんが主体的に検討し進めてくれたことが心強かったです。

## Comment



介護保険サービスではできないことがあるため、生活支援 Co に相談して、事業所を紹介することが時々あります。特に、経済的に余裕のある方は、近所の Vo よりも事業所を希望する傾向にあります。

実際に利用してみないとわからないことが多く、初めて紹介する時は慎重になりますが、ご利用者が満足された時はホッとします。

見守りは地域の人をお願いすることが多いのですが、事業所からも、ご利用者のことで気になることの報告があった時は助かりました。

荏田 CP 居宅 CM 秋元 京子さん

## 取組の内容

コロナ禍における様々な制約に配慮しながら、令和3年度は次の取組を進めました。

### ①事業所と生活支援 Co との意見交換会を開催

生活支援 Co 連絡会で、事業所を隔月で1か所ずつ招き意見交換を実施することにより、コロナ禍でも多くの事業所との接点ができました。意見交換を通して、会社案内のパンフレットには載っていない情報も知ることができ、事業所と生活支援 Co が気軽に相談し合える関係構築につながりました。

### ②事業所の紹介チラシを作成

包括やCMなどの第三者にも知ってもらえるように、意見交換を実施した事業所への密着取材を基に、支援助事例を集約した事業所紹介チラシを作成しました。

### ③「生活支援サービス事業所ファイル」を更新して配布

令和元年から事業所のパンフレット等の情報を1冊に集約したファイルを作成し、包括やCM事務所に情報提供していました。鮮度の良い情報を提供できるよう、令和3年度はパンフレット等の資料を新たに集め直し、内容を更新して約90箇所配布できるようにしました。

### ④新規事業所の状況把握

事業所の新規参加が多く情報のアップデートが必要となるため、企業連携チームで分担して新規事業所へのヒアリングを実施しています。令和3年度は10社以上のヒアリングを実施し、生活支援 Co 全員で共有しました。



事業所との意見交換会

## 1層Coの想い

令和3年度は、生活支援 Co がCM向けに事業所について情報提供する機会が何度かありましたが、事業所を協働するパートナーとして身近に感じてもらうにはどのように伝えたらいいか悩みました。そのため、まず生活支援 Co 自身が事業所と顔の見える関係を構築し、特徴などを把握したうえでCM等の関係機関に伝えていけるように心がけました。

CMから「介護保険ではできないことも頼めるのはありがたい」という声を聞く度に、この取組を進めてよかったと思いました。



事業所の紹介チラシ

## 今後に向けて

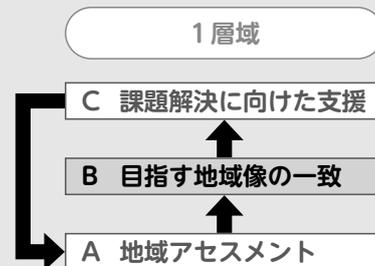
事業所との関係構築を進めていく中で、利用者本人の訴えがなくても他の困り事を見つけその場で解決してくれていたり、関係機関へつなぐ等の見守り役を担ってくれたりしていることが分かりました。また、生活の中のほんの小さな隙間を埋めるような細やかなサービス提供によって、利用する高齢者の生活がより豊かになっている様子も見受けられました。

暮らしのニーズが多様化しているからこそ、様々な関係機関と連携し、それらのニーズに答えられるように環境を整えていくことも、生活支援 Co の大切な役割だと考えています。

# 生活支援 Co が目指すのは どんな地域？

～啓発プロジェクトの立ち上げと協議を通じて～

昨年のコロナ禍を機に、体制整備事業では何をを目指すのか、生活支援 Co は何をする人なのかを広く地域住民に伝えるため、「啓発プロジェクト」を立ち上げました。目指す地域像をわかりやすく伝えるための具体的な方法を検討しています。



南区社協  
葛城 洋子

## 取組のきっかけ

南区では事業開始当初から、住民向けの体制整備事業の啓発を目的に、啓発グッズの作成や地域のお祭り等への出店を行ってきましたが、引き続き事業を広く地域に伝えていく必要性を感じていました。

コロナ禍で地域活動の休止が相次ぎ、活動支援ができない状況が続く中、こんな時期だからこそできる支援は何か、生活支援 Co 全員で意見交換をすることにしました。そこで、まずは地域の高齢者の状況を把握するために、各生活支援 Co から包括職員に、相談内容から見える生活の困りごとやコロナ禍前後の生活の変化についてヒアリングを行うことになりました。その結果を生活支援 Co 全員で共有したところ、「誰とも話せず孤立している」「外出しないことで、筋力低下により介護保険への申請が増加している」といった状況が分かりました。これらを基に意見交換を重ね、今できる支援として、①電話や手紙などで高齢者・活動者の状況把握、②活動の代替案の提案、③他の活動やコロナの正しい情報の提供など、各自でできることから少しずつ取組を進めていくことになりました。

また、地域活動の再開支援をしていくこの時期だからこそ、体制整備事業の目的や生活支援 Co の役割を今まで以上に伝えていく機会にしようと、有志メンバーによる「啓発プロジェクト」を立ち上げることになりました。

4名の2層 Co と共に、プロジェクトを通して何をどう伝えていくか話し合いました。その中で、体制整備

事業の目的や生活支援 Co の役割にとどまらず、支えあいや社会参加・生きがいの大切さを伝えたいなどの様々な意見が出ました。そこで、今年度のテーマを「地域の見守り合いの必要性を伝えていく」ことに絞り、啓発ツールの作成を進めていくことが決まりました。

## 1層Coの想い

コロナ禍で地域活動が休止となったことで、集う場や地域で行われている各活動は、高齢者と地域がつながり、見守り合える貴重な機会だったことに改めて気づかされました。生活の変化を皆が実感している今だからこそ、活動の意義を住民に改めて伝えていくチャンスと捉えました。各々の2層 Co が支援のあり方を模索していたので、皆で知恵を出し合い進むべき方向を一緒に考えていこうと思いました。

## Comment

コロナ禍において、体制整備事業として何ができ、何をすべきなのか…そんな思いのもと、啓発プロジェクトは生まれました。実施にあたっては、2層 Co を中心としたメンバーで進め、1層 Co はあくまでサポートに徹してもらいました。それは「何をすべきか」を2層 Co 自身で考え、進めてほしいという思いからです。プロジェクトは1年に亘る活動を経て最終コーナーを回ってきました。「ゆるやかに見守り合える地域づくり」実現のため、最後の頑張りには期待しています。

南区高齢・障害支援課地域包括ケア推進担当係長  
難波 紘平さん

## 取組の内容

プロジェクト会議では、下記の内容にメンバーで取り組みました。

### ①横浜市内で展開している「見守りキーホルダー」について、情報を収集

キーホルダーを使った啓発によって見守り合う地域を伝えていけるのではないかと考え、他区で行われている見守りキーホルダーについて調べました。

### ②南区で進める見守り啓発ツールを検討

「見守りキーホルダー」を調べていく中で、区の担当者（CW・保健師）から、南区でも認知症高齢者あんしんネットワークのネームタグといった似たような独自の取組や、横浜市で見守りシールの取組があることを聞きました。どちらの取組も生活支援 Co があまり把握していなかったため、それらとの差別化も必要と考え、まずは各取組について学ぶ機会を作りました。

### ③生活支援 Co が進める地域づくりはコレ！

意見交換の中で他都市の取組などを参考に検討を進めていると、『高齢者等の見守りガイドブック（東京都福祉保健局発行）』の「地域で行う見守りの方法」が目にとまりました。その中で記載のあったのは

- ①ゆるやかな見守り
- ②担当（民生委員や町内会長等）による見守り
- ③専門職（CM や CW 等）による見守り

の3つ。

これを見た2層 Co から「私たち生活支援 Co が目指すのは、住民と共に“ゆるやかな見守り”ができる地域を作っていくことじゃない?!」と弾む声が上がりました。



啓発プロジェクト（オンライン開催時）

## 1層Coの想い

プロジェクトのメンバーたちとは、右往左往しながら協議を重ねてきました。少人数だったこともあり、業務上で悩みや疑問に思うことなどを共有する機会にもなりました。具体的な取組が決まるまで時間がかかりましたが、結論を急ぐのではなく、「話し合う」というプロセスを大切にしました。

自分の考えや思いを言葉にし、お互いの思いを共有し合う中で、自分たちが目指す「地域像」を具体的にイメージしていくことが大切だと感じています。

## 今後に向けて

「啓発プロジェクト」は2層 Co を中心に、誰もができる「ゆるやかな見守り」の取組事例を共有し、話し合いを進めています。その中で、多くの住民へと広げていくことを目指し、「ゆるやかな見守り」について配布や説明ができる紙媒体の資料を作ってみてはどうかという意見が出ました。作成にあたり、住民目線で「ゆるやかな見守り」を伝えていきたいという思いから、福祉活動にあまり携わっていない住民や、店舗の方等、多くの方々と一緒に意見交換する機会を作りたいと考えています。

また、今回の取組を通して、区役所の保健師や CW とも話し合いを重ねたことで、お互いの立場や考え方を知り合う機会にもなりました。住民と専門職のそれぞれの視点を生かして、「ゆるやかな見守り」ができる地域づくりに向けた啓発活動を進めていきたいと思っています。

### Comment



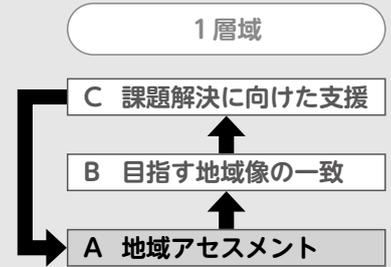
「見守り」の紙面づくりの検討を重ねる中で、印刷会社や住民の皆さんの声には大きな気づきや学びがありました。「安否確認」という言葉が重くて敷居が高い感じがするという意見があり、情報を受け取る側の目線や意見に目を向けていきたいと思いました。生活支援 Co は身近な地域で「助けあい」の輪を広げる支援をしています。今回取り組んでいる「見守り」の啓発を新しい支援のきっかけにしたいです。話し合いを重ねながら、どんな紙面が出来上がるのか、自分自身もとても楽しみです。

大岡 CP 2層 Co 山本 千香子さん

# 移動支援における 地域アセスメントの 進め方について

～共通シートを活用した取組から見てきたもの～

移動支援に関する課題や資源を洗い出すため、区域で統一したアセスメントシートを作成しました。データに個別相談、事業の関わりから把握した地域の声を照らし合わせることで、区域全体や小地域における移動支援の糸口を探っています。



都筑区社協  
杉崎 雅代

## 取組のきっかけ

都筑区では、過去に区域全体の取組として、CPごとに病院や商業施設等が行う移動支援の資源を一覧にしたり、CMからのアンケート回答を基にした移動支援アセスメントシートを作成したりしていましたが、職員の異動等により更新や活用ができていない状況がありました。

また、2層Coは日ごろの業務の中で、公共交通機関の空白エリアがあることや、住民との会話の中からエリア内に移動困難な課題があることを感覚的に掴み取っていたものの、その具体像についての明確化や解決のための取組にまでは至っていませんでした。

そこで、改めて地域アセスメントによって得た情報やニーズを地域支援に生かせるようになったらよいと考え、区域で統一した移動支援に関するアセスメントシートを作成し、各CPの2層Coが作成に取り組むことにしました。作成過程で得たデータなどを根拠にした客観的な視点と、2層Coが日常業務で把握した情報を合わせていくことで、地域を多角的に見ることもできると思いました。シートに一定の基準や共通ルールを設けることで、作成上の悩みや日ごろの地域支援の共通した課題を2層Co同士で意見交換する機会にもなると考えました。作成にあたっての地域情報の収集は、2層Coだけで行うのではなく、包括に寄せられる相談などCPの各部門から収集できるとよいと考え、所長会や各職種会議にてその旨を依頼しました。

## 1層Coの想い

以前から、移動支援に関する課題について、各種データを根拠に把握・整理していくためにはどのように情報を集めて分析すればよいのか、私自身が悩んでいました。2層Coからも同様の声を聞いていたので、みな意見を出し合いながら同時に取り組むことで進めやすくなるのではと考えました。区の担当係長、職員へ相談し、区・区社協・CPが一体となって取組を進めることになりました。

## Comment

都筑区において長期に渡って課題となっていた移動支援について、具体的な検討を進める上での一歩を踏み出す取組を行うことができたと感じています。

移動支援の視点に特化したアセスメントシートの区域での作成は初めての取組であったため、特に最初は難しさを感じる場面が多くなると考えました。そこで、定期的にオンライン会議も活用しながら進捗共有・意見交換を行うことで、多角的な視点や気づきを得る機会を設け、2層Coだけでなく区全体で取り組むことを心掛けました。



都筑区 高齢・障害支援課  
地域包括ケア推進担当係長 有岡 侑希さん (中央)  
職員 武田 啓子さん (左) 藤原 莉菜さん (右)

## 取組の内容

取組は以下の流れで進めていきました。

### ① アセスメントシートの原案を作成

区保健師から紹介があったコミュニティアズパートナーモデル（CAPモデル）のデータ等収集と分析方法を参考にして、移動支援に特化した項目を取り入れたシート原案を作成しました。生活支援 Co 連絡会内で提示し、「項目に通いの場の設置状況を入れてみてはどうか？」等の意見も取り入れながら、シートを確定させました。

### ② CP 内にて、アセスメント選定地区の選出

アセスメントシートには、高齢化率が高い、山坂が多い、道幅が狭いなど多数の項目があります。CP 内ではまず、それぞれの項目に対する地区の順位づけ（例えば、高齢化率が高い上位3地区を出す）を行いました。それを項目ごとに繰り返していくことで、頻繁に選出されるひとつの地区を対象に定め、その地区をさらに深くアセスメントしていくことにしました。

### ③ 生活支援 Co 連絡会にて、選定地区と理由の共有

選定地区のアセスメントをさらに進めるため、CP ごとにその地区の情報収集を行いました。まち歩きをしたり歴史を辿ったりと、取組方法も様々でした。情報収集の過程で、これまで見ていなかった地域状況に気づき、当初仮定していた地区を選定し直す CP もありました。全体での進捗の共有は、定例の生活支援 Co 連絡会とは別に共有日を設け、オンラインを取り入れ、工夫をして行いました。

これらの取組を進めていくことで、個々のニーズに合わせた柔軟な対応を検討していく必要性が見えてきました。そこで、子育てタクシー運行や買物代行サービス等細やかなサービスを展開しているタクシー会社との連携を模索するために、区内数社のタクシー会社へ呼びかけ、11月に区域の協議体を開催することにしました。

## 1層Coの想い

アセスメントの手法を統一し、各CPの2層Coが同時に作業を進めてお互いの気づきや悩みを共有する過程で、個々の視野が広がリスキルアップにつながっていくのではないかと考えています。今後は、アセスメントにより得られた各エリアの地域特性や個々のニーズを集約することで、都筑区全体を俯瞰して見た際に、移動困難の具体的な課題は何なのか、それに対してどのような取組を地域の方たちと一緒に考えていけるのか、分析・検討していきたいと思ひます。

## 今後に向けて

11月に行ったタクシー会社との協議体では、移動支援のアセスメントシートの一部を提示し、地域特性や課題として感じていることをお伝えしました。タクシー会社からは「高齢者・障害者向け付添サービス」など、各社の特徴あるサービスについて説明していただきました。そして、ニーズに合わせた細やかな対応を共に考えていきたいという力強い発言があり、課題解決に向けたパートナーシップを築いていけるのではないかと手ごたえを感じました。またその場で、ニーズ解決に向けた新たなサービスや仕組みを考える時に、専門職と企業だけで話し合いを進めるのではなく、そこに住む地域の皆さんの声を聴き、住民と共に検討を進めていくことが大切であることも再確認しました。専門職がアセスメントにより把握した地域ニーズを地域住民と共有し、「こんな地域にしていきたい」という合意形成を積み重ねることで、本当に困っている人に手が届く取組にしていきたいと思ひます。

移動支援アセスメントシート(R3年12月改定版) 地域ケアプラザ

1 エリアの選定  
(1)エリアの範囲  
原則、単位町内会としますが、エリアによっては単位町内会が広範囲となる場合もあるため、その際は適宜エリアを狭めても良いです。

〇〇地域ケアプラザ 【全エリア名】

(2)課題の有無で見たエリアの選定  
コミュニティアズパートナーモデル(以下CAPモデル)の視点に沿った移動支援に関する項目出しをしています。それぞれの項目に該当するエリアを記載します。比較対象は、上記(1)で出したエリアとします。●は地区状況シートから確認可能です。

(地区状況シート 年 月末現在)

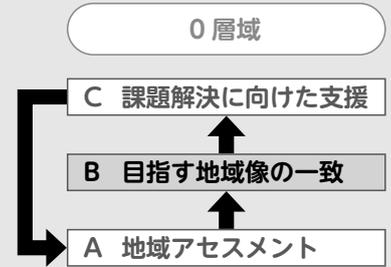
1. 地域のコア	エリア名(3つ)
1. 歴史	
2. 人口統計	●高齢化率が高い ●高齢者世帯割合が高い
3. 住居の様子	

共通のアセスメントシート

# 地域づくりの視点を 自分の言葉で語る

## ～1層 Co 連絡会の取組から～

1層 Co 連絡会の場を使い、1年間を通じて体制整備事業が目指すものは何か、その中で1層 Co が果たすべき役割はどういうものかなど、自分たちの言葉で語り、それぞれの考えを共有しながら自身の立ち位置を再認識する取組を進めてきました。



横浜市社協地域福祉課  
担当課長 森下 幸(左) 職員 藤盛 智子(中央左)  
稲田 恵子(中央右) 大久保 敦子(右)

### 取組のきっかけ

体制整備事業の開始から丸5年が経過し、この間に人事異動等によって1層 Co も入れ替わりがあり、令和3年度には1層 Co として3年以上の経験を持つ職員は18名中8名となりました。

対象者を問わず、広く地域福祉を推進するための様々な取組を進めてきた区社協の中で、1層 Co は高齢分野に軸足を置きながら、区の地域包括ケア推進担当係長と連携して事業推進の方向性を定めて区域全体の取組を進めつつ、2層 Co の総合的支援を行うことが求められています。

これまでにない職責のため、事業が始まった当初は、1層 Co 同士で模索しながら話し合い、自身の役割や立ち位置を確認しながら取組を進めてきました。

しかし、ここ数年の1層 Co 連絡会の中では、そうした話し合いの時間を持つことが少なくなっていました。事業開始当初からの1層 Co が残っている間に、この事業がどこを目指して、1層 Co はどんな役割を担っていく存在なのかということ、しっかりと言葉にして受け継いでいく必要性を感じ、この取組を実施しました。

体制整備事業の手引きの中にも、この事業が目指すことや、その中で1層 Co が果たすべき役割は整理されていますが、実践を通して得た気づきを言葉にして共有する中で、1層 Co の役割や立ち位置をより具体的に理解していくことを令和3年度の1層 Co 連絡会の目標としました。

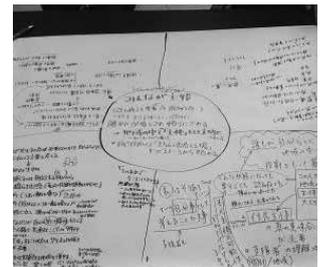
### 市社協の想い

区社協の業務の中には、1層 Co 以外にも地福計画、地区社協支援、地域交流 Co 連絡会など、地域支援系の業務担当者がいます。また、複数の職員で地区を分担しています。1層 Co という立場は一人ですが、地域づくりを進める上では区社協の全職員が同じ視点を持って、2層 Co と連携して地域支援にあたる必要があると考えています。

今年度の1層 Co 連絡会の取組は、1層 Co がより明確に地域づくりの視点を持ち、区社協内でも他の職員と連携して地域支援を進めていくことを目指した取組でもあります。



模造紙にそれぞれの考えを書いていきます



お互いの考えを聞きながら、中央にまとめていきます



「見守りはなぜ必要か？」について話し合い

## 取組の内容

1層 Co 連絡会の中で最初に実施したのは、体制整備事業で目指す地域の姿を言葉にして共有するという取組でした。「自分らしく、身近な、排除しない、SOSが出せる、誰もが主役…」など様々なキーワードが出され、私たちの取組は、誰もが地域の中でその人らしい居場所と役割を見出し、お互いに支えあいながら暮らしていく「地域共生社会」の実現につながるものであるということを確認しました。

また、実際の1層 Co が2層 Co と連携して行った地域支援の取組事例を基に、1層 Co の働きかけの意図や関わり方を学ぶ事例検討会も実施しました。1層 Co は、目指す地域の姿に向けて、2層 Co と連携して地域住民や企業、商店など多様な主体に働きかけて取組を進めていきます。その中で「何のためにこの取組を進めるのか、目指すべき目標は何か」を常に確認しながら、地域の中に同じ目線で同じ目標をもって動く人を増やしていく、その旗振り役を担うのではないかと、ということに気づきました。

そして、1層 Co がそうした役割を果たすためには、体制整備事業で進めようとしている「交流・居場所」「生活支援」「見守り・つながり」の取組が、「なぜ、何のために必要なのか」ということを自分の言葉で語れるようになる必要があるということにも気づきました。

これらの取組を地域共生社会につながるものとして、自分の中で整理して理解する必要があるため、下半期の1層 Co 連絡会の中では毎回テーマを設定して、自分の中で考えを咀嚼し言葉にする訓練を行い、さらにそれを話し合いの中で掘り下げていくようにしました。

こうした理論と実践を結び付ける訓練を行うことで、この取組をどこに向けて進めていくのかを、方法論に終始することなく目的志向で考えることが出来るようになってきたように思います。

### 市社協の想い

体制整備事業では、「交流・居場所」「生活支援」「見守り・つながり」の取組を地域の中で重層的に作っていくことが求められていますが、そうした取組が地域づくりの過程で地域住民によって主体的に生み出されてくるような働きかけが必要です。地域の力を高めることを意識して地域組織や地域資源に働きかけることで、住民自らが主体的に動き出し、新たな地域ニーズに気づき、必要な支えあいの仕組みを次々に整えていく。そうした「地域づくりの視点」を多くの人と共有して、この事業を推進していきたいと考えています。

## 今後に向けて

体制整備事業の中でも「見守りの仕組みづくり」は進め方が難しい取組です。事業が始まって以降、地元の宅配業者等の企業と連携して異変に気づいた時に関係機関に連絡が入る仕組みなども、各地域で進みつつあります。また、地区社協などの住民組織と地元の企業や介護保険事業所等が一堂に会して地域の見守りを考える連絡会等も始まっています。しかし、そうした取組は、年数が経ち連絡会に参加する人が入れ替わるにつれて、同じ意識で継続することが難しく、形骸化しがちという声も聞こえてきました。

令和3年12月の1層 Co 連絡会の中では「見守りはなぜ必要か」というテーマで話し合いを行いました。「見守りの仕組みづくり」を地域共生社会につながる「地域づくりの視点」で捉えた時に、体制整備事業として住民と共に取り組むべき見守りはどのようなものなのか、1層 Co 連絡会の中でさらに議論を深め、整理していきたいと考えています。

### Comment

1層 Co 連絡会での取組は、地域支援の実践事例等から1層 Co としての視点、役割や立ち位置を振り返るとともに、1層 Co 一人ひとりの想いを言語化するという過程は、まさに高齢者の生活ニーズと社会資源をつないでいくための実践につながるものです。

また、コロナ禍により、生活支援 Co の強みである地域に寄り添った働きかけが難しい状況もあったかと思いますが、改めて地域のつながり・支えあいの価値に気づいた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

体制整備事業への期待は、2025年に向けてますます高まっています。今後も感染症対策をしながら、ALL 横浜で多様な主体が連携・協力する地域づくりを目指していきましょう。



横浜市健康福祉局地域包括ケア推進課  
職員 岡部 雅美さん(左)、係長 小山 直博さん(右)

## 2層 Co へのヒアリングから見たことと今後に向けて

～一人ひとりの悩みから区内全体のスキルアップへ～

鶴見区社協 河野 由香里

区内9CPの2層 Coの半数以上が経験年数1～2年目であるため、それぞれが抱える悩みの把握を行う必要があると考えました。そこで1～2年目の2層 Coへ現在の取組状況や悩み、生活支援 Co連絡会で取り組みたいこと等について、個別にヒアリングを行いました。その結果、コロナ禍での地域の方々との関係づくりの難しさやニーズに合わせた事業の企画方法など、様々な想いが聞かれました。それらの中には、協議体の考え方や住民主体の活動にしていくための生活支援 Coとしての働きかけについてなど、他の2層 Coにも共通する悩みではないかと感じるものもありました。そこで生活支援 Co連絡会の場を活用し悩みの解決を図ることで、区内全体のスキルアップにつなげられるのではと考えました。

まずは協議体とは何かを改めて理解することで既存の話し合いの場の活用が進むよう、過去に発出された市の通知文を使い、協議体のとらえ方について皆で確認を行いました。その後の意見交換では、協議体で課題の共有はできるものの、主体的に検討してもらうことが難しいとの声が聞かれました。

引き続き生活支援 Co連絡会を活用したミニ勉強会等を行うことで、スキルアップにつなげていきたいと考えています。

### 1層Coの想い

2層 Coと悩みを相談できる関係づくりができればとの思いもあり、個別のヒアリングを行いました。

今後は住民主体の活動に向けた生活支援 Coの働きかけなど事例検討等も行っていきたいと考えています。今回伺った内容を大切に、今後も2層 Coの皆さんがより活動しやすくなるようなバックアップをしていきたいと思えます。

## 日々の地域支援と地域福祉保健計画を結び付ける

～コロナ禍における実践事例報告を通して～

神奈川区社協 白石 梨々花

今年度から第4期地福計画区計画（以下、区計画）の推進が始まったため、生活支援 Coと地域交流 Coに対し、区計画を意識した地域支援が進むことを目標とした合同研修を企画しました。両 Co 2名ずつに主にコロナ禍における地域支援の実践報告を依頼し、自身の地域支援に関連する区計画の目標と、両 Co が意識したポイントを取り入れてもらいました。

区計画の目標のひとつに「困りごとに気づくための仕組み作り」があります。ある生活支援 Coからは、生活支援 Vo 団体に対し、利用希望者の依頼内容をヒアリングする際に会話の中で隠れた生活上の困りごとはないかといった視点や、気になることを専門職へつなぐ視点をもって接してもらうための働きかけ等、区計画を意識し潜在的なニーズ発掘に注力したという報告がありました。このような実践事例を通じ、区計画と日々の地域支援のつながりを意識して業務に取り組む必要性について、皆で再確認しました。



Zoomでの研修の様子

参加した両 Coからは、いつも地区別計画に意識が向いていたため、区計画を改めて意識する機会があって良かった、などの声が聞かれました。

### 1層Coの想い

地域支援を進めるにあたり、CP、区役所、区社協が同じ目標に向かって話し合いや取組を進めることの重要性を感じています。区計画には区が目指す地域の姿が書かれています。支援で悩んだ時には、区計画に立ち返り自分たちの支援がどこを目指しているのか、目標を再確認するために活用していきたいと思えます。

## “みんなが主役”の動画配信

～ハマでうわさの西区民～

西区社協 原田 麻里

### 1層Coの想い

コロナ禍により地域の多くの活動が1年以上休止している中、どこを目指し活動を進めているのか皆模索していました。そんな中2層Co・1層Co・区地域包括ケア推進担当係長が同じ目的を持ち一緒に進めた動画作成は、全員が主体的に役割と責任を持った取組となりました。この取組を通じて育まれた事業推進の共通認識や自信、チャレンジ精神を生かして、各地域における社会参加の仕掛けと仕組みづくりが進むようサポートしていきたいと思えます。

西区では、JAGES 調査により 75 歳以上の後期高齢者の社会参加率が低いことが明らかになっています。そこで、生活支援 Co 連絡会（以下、連絡会）では、区民へ介護予防活動や Vo 等社会参加のきっかけとなる働きかけを何かできないか、話し合いを重ねてきました。また同時に、例年開催していた「地域活動発表会」がコロナ禍により予定通りできるか不確実なため、他の啓発方法を模索していました。その結果「地域活動者を応援したい」「より多くの人に色々な地域活動を知ってもらいたい」という生活支援 Co 共通の想いから、短編動画の作成に取り組むこととなりました。

動画は、各生活支援 Co とつながりのある 15 名の地域活動者に登場してもらい、1 人約 1 分のインタビュー動画をリレー方式でつなぐ内容としました。学習支援やおもちゃドクター等の身近な活動が、自身の役割や生き甲斐となっている様子を自らの言葉でイキイキと語ってくださる姿に、生活支援 Co 自身も地域活動がもたらす価値を再認識する機会となりました。CP・区社協のイベントや講座や地域懇談会の場で流したり、CP の HP、YouTube にアップするなど、配信の機会を広げています。



ハマでうわさの西区民  
～Let's TRY!! 地域活動～

▲ YouTube  
2次元コード

## 移動手段から高齢者の生活を支えるために

～タクシーを活用したお出掛け企画～

中区社協 米本 美穂

### 1層Coの想い

今年度は、地域側からの「やってみたい」を受け止め、一緒に企画から取り組むことにより、様々な関係者（地域活動団体、関係機関、タクシー会社等）と地域がつながり合うことができました。

今後は、イベント的な利用に限らず、タクシーの相乗りを活用し、より気軽に外出ができる仕組みづくりを、2層Coと共に進めていきたいと考えています。

中区は、坂道が多く以前から高齢者の外出が課題として挙がっており、CP の送迎車を活用した買物支援や事業への送迎、タクシーを活用したお買物ツアー等を実施してきました。

昨年度からはコロナ禍で地域活動が停滞したことにより、さらに外出や交流が難しくなり、ADL の低下等を心配する声が増えてきました。そこで、今年度もタクシー会社との協働事業を CP と共に取り組むことにしました。まずは、タクシーのドア to ドアの魅力や利便性を伝えるため、地域住民を対象に説明会を開催しました。

説明会に参加していた地区社協の方から「コロナ禍で例年行っていたバス旅行が出来ずにいる。タクシーを活用すれば密にならずに移動できる。また、体力低下により団体行動が難しい方も参加しやすくなるのでは？」と提案がありました。そこでタクシーを使った「イルミネーションツアー」を地区社協と CP・区社協と



イルミネーションツアーの打合せ中

で実施したところ「久しぶりの外出を楽しめた」など参加者にとっても喜ばれました。

他にも、本牧原 CP と本牧和田 CP が、共通の趣味を通じた仲間づくりを目的に「歴史ツアー」を実施するなど、タクシーを活用した外出・交流の機会が広がりつつあります。

## 戸別訪問から生活支援 Co が目指すこと

～実践力を身につけコロナ禍でも課題解決へ～

港南区社協 山川 英里

コロナ禍で地域課題の解決にこれまでの手法がとれない中、ある大規模集合住宅で、住民と CP が介護予防と住民のつながりづくりを目的に「歩こう会」を企画し、その周知のため 120 世帯を超える一人暮らし高齢者に戸別訪問を行うことにしました。今後の住民同士の支えあい活動につなげることを見据え、訪問時に一人ひとりの高齢者のアセスメントも行うことにしました。UR、1層 Co、2層 Co、包括が協力して、「歩こう会」の周知とともに団地内の移動販売の情報、CP や区社協の紹介などの説明を丁寧に行いながら、コロナ禍での生活や健康状態・困りごとなど一人ひとりに聞き取りました。



戸別訪問時の様子

その結果、元気で外出の機会や場が少なく、気持ちが落ち込み孤立しがちな人が多くいたことから、アセスメントで得た情報を自治会・民生委員・住民等と共有し、話し合うために協議体を開催しました。「もっと住民同士つながっていかねば」との意見から、継続した戸別訪問による状況把握や住民支えあいマップによるつながりの見える化、サービス B 団体と連携した講座の開催、企業と地域の協働事業など、住民による取組は様々な形に広がっています。

## 1層Coの想い

2層 Co が課題解決に取り組むにあたり、ひとつの取組から複数の効果を派生させることや先々の事業展開を意識しながら、地域と一緒に考え、進められるような支援を心掛けました。

コロナ禍において「できないこと」を嘆くのではなく「できること」を住民・関係機関で協議し、各々が役割を持ちながら地域づくりへの「あゆみ」を止めないよう働きかけました。

## コロナ禍での住民主体の「通いの場」の活動支援について

～専門職としてどのように支援していくか～

保土ケ谷区社協 三枝 治美

コロナ禍により、住民主体の「通いの場」では運営の見直しや休止せざるを得ない団体もあり、2層 Co や包括には、集まることへ不安や、会わないことで参加者の様子が分からず心配だという相談が寄せられました。そこで、今後の活動支援の方向性を確認できるように、区役所介護予防担当と協働して CP 等支援者向けの研修を企画しました。参加者からの事前アンケートでは、地域活動休止により住民の様子が把握しづらいことへの戸惑いや、コロナ禍での活動支援のあり方を模索していることが分かりました。研修では、講師のお話から、活動団体が通いの場で大事にしてきたことや、支援者として大切なことは「伴走する」ということを再確認しました。

研修を受け、支援のアイデアを出し合った結果、公園での体操等屋外での活動や、高齢者が CP へ来所するきっかけづくりのための脳トレドリルの作成、グループリーダー連絡会の開催など多くの意見が出されました。



お互いに顔を見ながら研修受講

来年度は「集いの場」の活動団体を対象とした研修を企画しています。活動を継続することの意義や、コロナ禍において人とのつながりを保つ工夫などを共有し、団体が安心感や自信を持って活動できることを目指しています。

## 1層Coの想い

研修を通して、コロナ禍での地域や団体の活動状況、支援する CP 職員の視点や想いを把握することは、1層 Co として保土ケ谷区の活動を知ることにもつながりました。

研修の構成について区役所や講師と丁寧に検討を重ねた結果、CP・区社協・区役所等支援者が一緒になって団体に寄り添い「伴走し続ける」ことの大切さを参加者間で共有することができました。

# 区域で取り組む見守りの仕組みづくり

～仕組みづくりを通しての“気づき”と“学び”～

旭区社協 梅木 博志

## 1 層 Co の想い

この取組は、仕組みを作ることだけが目的ではありませんでした。旭区・各地区をどんな地域にしていきたいのか、参加者である地区社協の皆さん、2 層 Co と議論を重ねて共有し、その理想の姿に近づくためにどんな見守りがあるかといふのか、イメージを作り上げていくことを大切にしました。見守り活動は、地域住民だからこそできる身近な地域活動であるため、ワーキンググループの意見を最大限に踏まえ形にしていくサポートに徹しました。

体制整備事業の柱でもある「見守り・つながり」は、住民自らがその必要性に気づき、仕組みづくりから関わりながら、その中でさらなる“学び”を得ることで、「我が事」感を持って進めていくことが必要です。そこで旭区では、区域の見守りの仕組みづくりを進めるために、地区社協分科会内に地区社協会長、副会長、事務局長計 6 名と 2 層 Co 6 名をオブザーバーとするワーキンググループを立ちあげ、令和元年 11 月から令和 3 年 5 月まで全 14 回検討を行いました。

区内における見守りの現状の共有や、他都市の見守りの仕組みを研究し、それをベースに旭区に合った見守りの仕組みを議論していきました。「なぜ見守りが必要なのか」「どんな見守りが必要なのか」「見守り活動を通してどんな地域にしていきたいのか」といった議論を重ね、参加者の中で“気づき”と学び“を深めながら明確化していきました。その結果、地区社協が運営主体となり、日常生活の中で自然な形で見守り合い気かけ合う地域を目指す仕組みである「ご近助ほっこり活動」が誕生し、身近なエリアでの取組が始まりました。



ご近助ほっこり活動の手引き

# 高齢者の外出手段としてのタクシー活用の取組

～2 層 Co と連携し、ひとつずつ事例を積み重ねて～

磯子区社協 右馬 彩子

## 1 層 Co の想い

令和元年から中区・磯子区・栄区合同でタクシー会社との協議体を年に数回開催しています。その中で発案され他区で行われた外出支援の取組を 2 層 Co に情報提供し、アイデアを出し合いながら今回の実践へつなげました。磯子区内におけるタクシーを活用した外出支援の展開は始まったばかりです。地域の皆さんとの話し合いを積み重ねながら、ニーズに合わせた取組を広げていけたらと考えています。

洋光台地区の老人クラブでは、コロナ禍で恒例のバス旅行が中止になり、会員の体力低下やつながりが希薄になっていくことが課題になっていました。また、以前から進めていたタクシー会社との情報交換の中で、通院や買物などに毎週タクシーを利用している高齢者が数多くいて、住民の重要な移動手段であることが分かりました。そこで洋光台 CP で、タクシーを活用した外出機会について住民向けに情報提供をしたところ、感染症や乗車金額に対する不安の声が聞かれました。そのため心理的なハードルを下げることを目的に、地区老人クラブ会長会で「高齢者のタクシー利用について考える会」を開催し、タクシー会社から、他の公共交通機関と比較してのメリットや、アプリを使った手軽な配車ツールについて説明してもらいました。さらに、2 層 Co から老人クラブの会員に対してタクシーの安全性を丁寧に説明し続けた結果、バス旅行の代わりとしてタクシーを利用した

日帰りツアーを実施していただくことになりました。

半年間の準備を経て「南部市場」へのツアーが実現。参加者は久しぶりの遠出と買物に生き生きとされ、買物後、近所へお裾分けをするなど住民ならではのつながりづくりのきっかけも生まれました。



南部市場へ出発！

# ヨコハマ地域活動・サービス検索ナビの公開に向けて

～利用者目線での情報発信～

金沢区社協 安田 加奈

昨年度、金沢区では2層 Co から「生活支援に関する相談対応の場面で、相談に来た人も説明する側も見やすいツールを作りたい」との発案があり、区内の自費を含めた生活支援サービスに関する情報サイトの立ち上げに向けた検討を開始しました。他県のサイトを参考に準備を進めてきた中で、ヨコハマ地域活動・サービス検索ナビ（以下、検索ナビ）の公開が具体化したため、検討していたものと一本化することが決定。今年度は今まで進めてきた検討内容をどのように検索ナビに反映させるかを改めて話し合いました。

まずは入力済の内容を確認してみると CP 毎にばらつきがあったため、どのように統一出来るかを検討しました。その中で、実際に検索ナビを活用する方が「このサロンに行ってみよう」「このサービスを利用したい」と思えるような利用者目線での情報発信を目指していくことが決まりました。生活支援 Co 連絡会の中の担当2層 Co を中心に入力サンプルの作成や入力時の注意事項を確認しながら、令和4年3月の公開に向け、準備を進めました。

また、自費サービスを実施する事業所に検索ナビへの掲載依頼も兼ねて訪問するために、体制整備事業の紹介と顔の見える関係づくりを目的としたリーフレットの作成も行いました。



事業所向けのリーフレット

## 1層Coの想い

昨年度まで進めてきたサイトの検討を踏まえ、分かりやすく情報が届くよう、検索ナビについて2層 Co と共に検討を進めてきました。話し合いの中で、利用者目線の情報発信の大切さについて改めて確認できました。リーフレットも担当2層 Co がたくさん悩みながら作成しました。当事業の理解者を増やしながら、「地域で暮らしつづけてたい!」という住民の想いを事業所と一緒に支えていきたいと思っています。

# 地域アセスメント力の向上

～地域支援の基礎となるアセスメントを見直そう～

緑区社協 松本 賢剛

事業推進が進む中、改めて生活支援 Co の役割を確認するために、CP 業務連携指針の「業務と能力の表」を基に2層 Co と自己評価を行いました。その結果、アセスメントの項目の点数が全体的に低い傾向が見られました。

そこで生活支援 Co 連絡会の中で、アセスメント力の向上につなげることを目指し、2層 Co としてどのように地域を見立てているかをお互いに知る機会を設けました。1層 Co から、体制整備事業の目的である「交流・居場所」「生活支援」「見守り・つながり」の充足度もアセスメントで図ることを働きかけました。

生活支援 Co 連絡会では、ある CP 内の1つのエリアの情報を基に、生活支援 Co 全員で情報収集や分析の仕方、地域住民等への情報提供の方法について検討しました。そこで得たものを生かし、今度は各自が担当するエリアで人口や交通情報等のデータを地図上に落とし、相談傾向を分析したりしてアセスメントを行いました。その



アセスメント集約シート

中で、2層 Co がより多くの住民とのつながりを持つ必要性に気づき、今まで関わりのなかった住民と接点を作るための動きも活発化しました。

CP では、アセスメントの結果を関係機関と共有し、支援エリアの優先順位を設定するなど、支援方針の策定にも生かされています。

## 1層Coの想い

各2層 Co が自己評価を行ったことで、地域支援をする上で土台となるアセスメントの必要性が再認識できました。地域の見方・働きかけの仕方など、普段目にしづらい手法や考え方も2層 Co 同士で共有する場を設ける過程で、これまで行ってきたアセスメントを振り返り、新たな視点を獲得できかけたくなったと思います。

# 生活支援Co 連絡会におけるスキルアップに向けた取組

～生活支援体制整備事業が目指すものについて共通理解を進める～

戸塚区社協 村上 尚子

## 1 層Coの想い

体制整備事業を推進する上で大切な視点である「住民主体の地域づくり」をテーマに、各班の取組や企画・調整などを行いました。目に見える「手法」に注目しがちだったり、「住民主体＝住民任せ」の視点とならないように、「住民主体がなぜ必要か」を2層Coへ随所で投げかけ、共に考えていけるように心掛けました。その結果、目指すものや価値観の共有が進み、関係者間での連携も深まりました。

戸塚区は経験年数2年未満の2層Coが半数以上いて、生活支援Coとしての役割や立ち位置に悩んでいるという声が聞こえてきました。そこで、生活支援Co連絡会（以下、連絡会）の場を活用して「役割や立ち位置の再確認」を皆で行えると良いと考えました。昨年度連絡会で作成した事例集を活用する研修班、他地区での活動事例の見学を企画する視察班、体制整備事業を普及啓発するための広報班の3班で取組を進めていくことにしました。その中で研修班では、事例集を活用した事例研究の企画を行いました。毎月の連絡会で一つずつ事例を取り上げ、2層Coの地域への働きかけにあたっての想いや関わり方などを中心に報告しました。その後グループワークでは「生活支援Coが注視するポイントは？」「どのような言葉を使って地域へ伝えていくか？」といったプロセスや意図に焦点を当てた話し合いを行いました。連絡会前の事前打合せを毎月行うなど、入念な準備を進めていく中で、体制整備事業が目指す地域の姿や、生活支援Coの役割の共通理解が少しずつ進んできたように感じています。2層Co同士の連携も深まり、日頃から相談しあえるような関係構築も進んでいます。



連絡会での実践事例集の研修の様子

# 施設との連携による地域貢献の輪を広げる

～地域ニーズについて考えてもらうためのきっかけづくり～

泉区社協 中川 直樹

## 1 層Coの想い

泉区には、障害者施設や高齢者施設が多く点在し、その多くは地域に根差した運営をすることを大切に考えています。施設同士で実践例を共有することは、地域における公益的な取組を展開するための後押しになると考えました。今回の部会での取組発表は、それぞれの施設での地域ニーズに応じた取組について考えるきっかけとなりました。今後も2層Coと働きかけを進めていきたいと思っています。

泉区では、社会福祉法人等施設の地域における公益的な取組を展開するため、福祉施設を中心に構成された泉区社協専門機関部会が主体となり、平成28年度に「泉サポートプロジェクト（以下PJ）」が立ち上がりました。その後CPエリアにおいて、施設と地域が連携し移動支援等の取組が進められています。今年度は、施設がお互いの取組を知ることで、より身近な地域課題へのアプローチがさらに進むことを意図し、本部会で取組発表を行うことにしました。発表施設と生活支援Coとの事前打合せでは、各施設が大切にしている想いや取組の原動力、将来の展望等をじっくりと話し合い、実践のポイント整理を行いました。発表では、ある特養から、台風で停電した際に地域住民が発電機を持って駆けつけてくれたことへの恩返しとして、施設駐車場で移動販売を地域住民にも開放した、と報告がありました。施設の入居者が屋外で好きなものを選びながら買物をするにより、本人の気持ちが前向きに変化したといったエピソードも聞かれました。他2つの実践報告においても、地域ニーズに対する取組が行われており、福祉施設が地域づくりの一翼を担う大切な存在になりうる可能性を共有することができました。



取組発表の様子

# 個別支援と地域支援の専門職の連携について

～主任 CM と生活支援 Co による検討～

瀬谷区社協 丸山 敦子

個別支援と地域支援の専門職の連携による支援について、包括の主任 CM と生活支援 Co で一緒に検討を行うことになりました。二ツ橋 CP が主体となり、メンバー 9 名で話し合いを進めています。お互いの立場で感じている課題を共有したところ、主任 CM から「CM は高齢者の個別の生活課題はわかるが、それを地域課題と捉えて考えることに慣れていない」「地域ケア会議以外で、必要な社会資源を気軽に話し合う場がないため、具体的な検討や働きかけにつながっていない」という声が挙がりました。一方、2 層 Co からは「虚弱や要介護状態の方々の具体的な生活ニーズについて実態が掴めていないため、地域等への働きかけが十分にできていない」という意見が出ました。

そこで、それぞれの職種で得ている情報や課題を共有し整理することで、地域や企業等への働きかけによる新たな資源開発につながるのではないかと意見が



話し合いの様子

まとまりました。今後も話し合いを続け、主任 CM が関わっているケースの課題を洗い出し、個別ニーズに対応できる社会資源の情報収集や整理を行ったり、新たな社会資源の検討につなげていく予定です。

## 1 層 Co の想い

最初の話し合いで、主任 CM と生活支援 Co で「地域」の捉え方があいまいで、見えている世界や悩みが違うことに気づきました。そこでお互いの立場を十分理解し各々の強みを生かした検討ができるように、とことん双方の知りたいことを話し合う時間を作っています。この話し合いの場を、高齢者一人ひとりの生活に合わせたきめ細かな社会資源の充実や仕組みづくりへつなげていきたいと考えています。

## 略字表記

※この冊子では、次の用語については ( ) 内の表示とします。

- ・地区社会福祉協議会 (地区社協)
- ・区社会福祉協議会 (区社協)
- ・市社会福祉協議会 (市社協)
- ・民生委員・児童委員 (民生委員)
- ・自治会町内会 (自治会)
- ・地域福祉保健計画 (地福計画)
- ・地域ケアプラザ (CP)
- ・地域包括支援センター (包括)
- ・特別養護老人ホーム (特養)
- ・特別養護老人ホーム併設地域包括支援センター (特養包括)
- ・生活支援体制整備事業 (体制整備事業)
- ・生活支援コーディネーター (生活支援 Co)
- ・第 1 層生活支援コーディネーター (1 層 Co)
- ・第 2 層生活支援コーディネーター (2 層 Co)
- ・地域活動交流コーディネーター (地域交流 Co)
- ・ケースワーカー (CW)
- ・ケアマネジャー (CM)
- ・ボランティア (Vo)
- ・新型コロナウイルス感染症 (コロナ)





## 第1層生活支援コーディネーター活動事例集

発行月 令和4年3月

発行 社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会

〒231-8482

神奈川県横浜市中区桜木町1-1

横浜市健康福祉総合センター 8階

(地域活動部 地域福祉課)

TEL : 045-201-8616 FAX : 045-201-1620

<http://www.yokohamashakyo.jp>



ほら、  
よこはまは  
あったかい

※この事例集は、横浜市健康福祉局地域包括ケア推進課の委託契約に基づき作成しています。